



中学生が力強く 思いを語る



入川 優衣さん 加登 七海さん 谷 優里さん
東 実香さん 向井 雪乃さん 森川 夏帆さん
才野瀬 可奈さん 奈良 美優さん 村上 美智さん
川本 和則くん 新原 花さん 濱満 晴菜さん

6月29日、市民館で第10回「少年の主張」竹原市中学生話し方大会が開催されました。市内4中学校の代表として12人が出場し、家族との交流、部活動や学校での体験から感じたことや意見などを堂々と発表しました。

発表後に話を聞いてみると、「練習の成果を出せるようにと思って臨みました」、「緊張して文章をとばしてしまつたところもあったけど、頑張れたと思います」と、発表に備えて練習をしっかりと行ったことや、発表前の緊張した様子が伝わってきました。

竹原市長賞には、賀茂川中学校3年、新原花さんの「あきらめんけんね」が、青少年育成竹

原市民会議会長賞には、竹原中学校3年、川本和則くんの「剣道物語」が選ばれました。

新原さんは、バイク事故に遭った祖母が生きることをあきらめない姿に感動したことを、川本くんは、剣道を通して、礼を尊ぶ大切さを知り、自分を形作り、仲間ができたことに対する感謝の気持ちと今後も続けていく決意を語りました。2人は、秋に行われる県大会に市の代表として参加します。

さらに、最優秀学校賞は、吉名中学校が受賞し、10人に優秀賞が贈られました。

12人の発表は、インパクトのある第一声と豊かな表現で、来場者を引き込んでいました。

持てる力を発揮して 全国へ

7月18日、市民館で全国大会出場者激励会が行われました。全国大会への出場を決めた14人を代表して、3人が意気込みを話しました。

「今年の世界大会も兼ねるということですので、1回、2回でも多く勝って、竹原の名を広めたいと思います。」(世界松涛連盟空手道選手権大会出場/出口善久さん/竹原錬心館)

「昨年度はあまりいい結果が残せなかったのですが、今年度は1回でも多く勝てるよう頑張りますので、応援よろしくお願いします。」(全国高等学校相撲選手権大会出場/中尾英貴くん/竹原高等学校)

「日頃指導してくださる先生方などに感謝して、県の代表として恥ずかしくない態度で試合に臨むと思います。」(全国中学校相撲選手権大会出場/大川雄士くん/竹原中学校)

全国大会出場者激励会



全国大会というプレッシャーに負けず、持てる力を十分に発揮してきてください!



7月22日と24日の2日間、広島大学竹原ステーションで、海の生き物観察体験が行われ、市内の小・中学生が、教授や学生と共に研究の面白さ・海の大切さを体験して学びました。大塚攻教授によるクラゲについての講義の後、船で生野島に渡り、地引き網体験や生き物の観察を行いました。

22日は、小学5・6年生29人が参加しました。中松花音さん(竹原西小学校5年)は、「地引き網が楽

海の生き物には不思議がいっぱい! ~広島大学との連携交流事業~

しかった。クラゲはすごいと思った。」と、笑顔で話してくれました。

また、24日は、中学生14人が参加しました。堀越大智くん(竹原中学校1年)は、「いろんな生き物に出会えて良かった。」と、感想を話してくれました。

多くの生き物が住む竹原の海。大切にしていこうと、あらためて実感できたのではないのでしょうか。

花を植えて 観光客へおもてなし

6月28日、国道432号(下野町)で植栽が行われました。下野老人クラブ、中通小学校4年生の児童、観光協会、市が協力して実施。ポチュラカとサルビアを植え、芝生にはプランターも置かれました。観光客の人が喜ぶよう、元気にきれいな花を咲かせて欲しいですね。



ココロの元気 楽しく学ぶ

6月30日、市民館で、元吉本興業プロデューサーの大谷由里子さんが、男女共同参画推進をテーマに講演しました。大谷さん自身が経験した仕事・結婚・子育てなどについてユーモアを交えて話され、会場からは絶えず笑いが沸き起こりました。



熱く盛り上がる みこし行事

7月14日、忠海駅前一带で、忠海祇園祭とみこし行事が行われました。早朝6時から、その勇姿を写真に収めるため、また猿のお守りをもろうため、弁天神社前には大勢の人が集まりました。荒々しくまわされるみこしに、周囲は熱気に包まれました。



まちなみ竹工房リニューアル

7月14日、町並み保存地区内のまちなみ竹工房のリニューアルを記念して、セレモニーが行われました。建物外観は古いまま残されましたが、店内は明るく生まれ変わりました。装いも新たに、竹の文化を発信する拠点となりそうです。



海を大切に みんなで清掃

6月30日、的場海水浴場でリフレッシュ瀬戸内が行われ、市内の企業や団体など415人が集まり、海岸のごみを拾いました。

また、7月7日、大久野島では、おさかな放流と海岸クリーンアップが行われました。事前に申し込みをした150人の親子が、大久野島の海岸を清掃した後、稚魚の放流を行いました。

海や自然を大切にできる機会となったのではないのでしょうか。

仁賀ダム対策同盟会解散



仁賀ダム対策同盟会 解散

7月23日、かんぼの宿竹原で、仁賀ダム対策同盟会の解散式が行われ、同盟会の会員約30人が集まりました。

仁賀ダムは、昭和45年に建設が計画され、平成24年3月に完成し、同盟会は所期の目的を達成したとして解散することとなりました。

式典では、長年にわたりダムの整備に尽力された同盟会の平田耕作会長に、小坂市長から感謝状が贈呈されました。

仁賀ダムは、河川の氾濫防止や水の安定供給などの役割を果たし、市民のみなさんの安全安心な生活を守っています。